

# 心理学方法論 I (01EE001)

## (Methodologies on Psychology I)

**授業形態**：講義

**授業時間**：1 学期 火曜日 第 2・3 時限

**単位数**：2 単位

**履修年次**：1 年

**担当教員**：茂呂雄二ほか 4 名

**研究室**：人間系研究棟 A308 他

**オフィスアワー**：教員により異なる

---

**授業の到達目標**：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

**授業概要**：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

**評価方法**：出席と試験。

**教科書**：特に使用しない。

**参考図書**：そのつど指示をする。

**授業外における学習の方法**：関連する研究論文を講読すること。

**受講生に望むこと**：研究のアイデアを豊かにすること。

---

### 授業計画（各週毎授業計画）

- ① 4月14日…吉田富二雄：オリエンテーション（心理学の方法論：人間行動の測定）  
心理尺度の構成（尺度の信頼性と妥当性）
- ② 4月21日…吉田富二雄：態度の測定  
(潜在連合テストとSD法について)
- ③ 5月12日…湯川新太郎：実験計画法① 概要とポイントの解説
- ④ 5月19日…湯川新太郎：実験計画法② 具体的な研究例を用いて
- ⑤ 5月26日…佐藤有耕：青年心理学研究の方法論（研究の目的，研究の進め方，方法論について講義する。）
- ⑥ 6月 2日…佐藤有耕：青年期を対象とした質問紙による研究法（尺度作成的な研究と内容分析的な研究について講義する）
- ⑦ 6月 9日…櫻井茂男：幼児を対象とした調査について：面接を用いた調査など
- ⑧ 6月16日…櫻井茂男：児童を対象とした調査について：簡単な質問紙など
- ⑨ 6月23日…茂呂雄二：言語分析の手法（定量的分析：アイディアユニット、文の複雑さ、文間の接続の分類など）
- ⑩ 6月30日…茂呂雄二：談話分析の手法（定性的な分析：GTA、内容分析、相互行為分析、言説分析など）

# 心理学方法論Ⅱ (01EE002)

## (Methodologies on PsychologyⅡ)

**授業形態**：講義

**授業時間**：2学期 火曜日 第2・3時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1年

**担当教員**：茂呂雄二ほか5名

**研究室**：人間系学系棟 A312 他

**オフィスアワー**：教員により異なる

---

**授業の到達目標**：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析する十分な技能の修得をはかる。

**授業概要**：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

**評価方法**：出席と試験。

**教科書**：特に使用しない。

**参考図書**：そのつど指示をする。

**授業外における学習の方法**：関連する研究論文を講読すること

**受講生に望むこと**：研究のアイデアを豊かにすること

---

### 授業計画（各週毎授業計画）

- ① 9月 8日…松井 豊：因子分析 … 因子分析の基本的手順を説明し、因子の命名に関する実習を行う。
- ② 9月15日…松井 豊：数量化Ⅲ類 … 数量化Ⅲ類（双対尺度法を含む）の基本的な手順を説明し、調査における利用方法を詳細に解説する。
- ③ 9月29日…菊地 正：心理物理学(1)（心理物理学的測定法，信号検出理論を概説する。参考書 Gescheider 著心理物理学）
- ④ 10月 6日…菊地 正：心理物理学(2)（心理物理学的測定法，信号検出理論を概説する。参考書 Gescheider 著心理物理学）
- ⑤ 10月13日…綾部早穂：ニューロイメージング手法を用いた研究論文の眺め方
- ⑥ 10月20日…綾部早穂：実験の外的・内的妥当性について
- ⑦ 10月27日…外山美樹：パネル調査(1)（パネル調査（縦断研究）を取りあげ，調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ⑧ 11月 4日…外山美樹：パネル調査(2)（パネル調査（縦断研究）を取りあげ，調査研究において因果関係を検討する方法について紹介する。）
- ⑨ 11月10日…服部 環：検定力分析  
(フリーソフト R を用いて統計的検定力について学ぶ。)
- ⑩ 11月17日…服部 環：構造方程式モデリング（フリーソフト R を用いて構造方程式モデリングについて学ぶ。)

# 心理学方法論Ⅲ (01EE003)

## (Methodologies on PsychologyⅢ)

**授業形態**：講義

**担当教員**：新井邦二郎ほか6名

**授業時間**：3学期 火曜日 第2・3時限

**研究室**：総合研究D棟706ほか

**単位数**：2単位

**オフィスアワー**：教員により異なる

**履修年次**：1年

---

**授業の到達目標**：心理臨床のさまざまな方法論について学び自分の研究計画に生かせること

**授業概要**：主に心理臨床の方法論を取り上げ検討する。

**評価方法**：出席と試験。

**教科書**：特に使用しない。

**参考図書**：そのつど指示をする。

**授業外における学習の方法**：関連する研究発表物にあたること。

**受講生に望むこと**：研究のアイデアを豊かにすること。

---

### 授業計画（各週毎授業計画）

- ① 12月 1日…望月 聡：神経心理学的検査、認知リハビリテーション
- ② 12月 8日…望月 聡：神経心理学的検査、認知リハビリテーション
- ③ 12月15日…濱口佳和：多様な単一事例実験計画法
- ④ 12月22日…予備日
- ⑤ 1月12日…濱口佳和：多様な単一事例実験計画法
- ⑥ 1月26日…（ ）
- ⑦ 2月 2日…（ ）
- ⑧ 2月 9日…小川俊樹：事例研究、病態心理学、ケースを読むこと
- ⑨ 2月16日…小川俊樹：事例研究、病態心理学、ケースを読むこと
- ⑩ 2月23日…新井邦二郎：乳幼児を対象とした実験
- ⑪ 3月 2日…試験

# 感覚知覚心理学特講 (01EE101)

(Lecture on sensation and perception)

**授業形態**：講義

**授業時間**：1学期 金曜日 第4・5時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1～2年

**担当教員**：菊地 正

**研究室**：人間系学系棟B309 電話 4721

**オフィスアワー**：火曜日 15:15～16:30

---

**授業の到達目標**：情報処理論的アプローチの理解

**授業概要**：情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。関連する文献を取り上げながら、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。

**評価方法**：授業への出席、討論への参加度、レポートあるいは筆記試験で評価する。

**教科書**：

**参考図書**：ラックマン他 箱田・鈴木監訳 「認知心理学と人間の情報処理 I II III」 サイエンス社

**授業外における学習の方法**：参考図書や文献の講読

**受講生に望むこと**：自主的な学習、幅広い知識の獲得

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

精神的時間計測

反応時間計測史, Donders の減算法, Neisser の視覚走査, Sheperd & Metzler の心的回転, Sternberg の要因加算法, 速さー正確さのトレードオフ, SAT 関数, 反応時間計測の方法論的問題点, など

知覚の範囲

Jevons の研究, Warren の反応時間計測実験, Kaufman et al. の subitizing 研究, Taubman の時間的計数研究, White の心理的時間単位, Atkinson の不思議な数  $4 \pm 0$ , Oyama et al. のマスキング研究, 運動対象の追跡, 単語文字のスパン, 感覚記憶実験, 位置の記憶, 有効視野研究など

注意の初期の研究

聴覚での研究, カクテルパーティ問題, 両耳分離聴取, Cherry の研究, 初期の視覚研究, 部分報告法, 選択的視認, Neisser & Becklen の研究, Moray の研究, Kahneman の容量説, Norman の pertience model, など

注意の研究

変化検出実験, IB, CB, AB, NP, Stroop 研究, 先行手がかり法, など

視覚的記憶

視覚マスキング, Sperling と Averbach & Coriell の研究, 視覚的持続, Turvey のマスキング研究, 短期視覚記憶, パターンの記憶, サーカード間記憶, 概念マスキング, 無意識の情報処理, 長期視覚記憶, 選択的干渉, など

# 認知心理学特講 (02E C 005)

(Lecture on Cognitive Psychology)

**授業形態**：講義

**授業時間**：2学期 木曜日 第2・3時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：綾部早穂

**研究室**：人間系学系棟 B304 TEL853-4613

**オフィスアワー**：火曜日 15:30～17:30

---

**授業の到達目標**：認知心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。

**授業概要**：認知心理学分野の最近の重要な文献をレビューしながら、人間の認知機能に関する理解を深める。また、研究テーマの取り上げ方や方法論について講義する。

**評価方法**：授業への出席と授業への関与の度合いを総合的に判断する。

**教科書**：

**参考図書**：

**授業外における学習の方法**：

**受講生に望むこと**：

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

平成21年度は、H.L. Roediger のレビュー論文“The Power of Testing Memory”を読みすすめながら、どのような研究手法で、何が明らかにされたのかを、オリジナルの研究論文を参照しながら確認し、理解していく。並行して、この領域における方法論（実験用プログラムの使用）についても学習する。

1. オリエンテーション・認知心理学に対する理解度の確認
2. ～ 7. 研究論文のレビュー（どのような研究手法で、何が明らかにされたのかを中心に。）
8. 認知心理学研究における方法論について考える
9. 特定のテーマに対して実際に実験計画を立て、期待される結果について考える。
10. 特定のテーマに対して実際に実験計画を立て、期待される結果について考える。

# 言語心理学特講 (01EE107)

(Lecture on Psychology of Language)

**授業形態**：講義

**担当教員**：茂呂雄二

**授業時間**：3学期 木曜日 第2・3時限

**研究室**：人間系学系棟 A346 853-4615

**単位数**：2単位

**オフィスアワー**：木曜日昼休み

**履修年次**：1・2年

---

**授業の到達目標**：言語心理学の現状を理解する。

**授業概要**：言語の心理にかかわる研究を、とくに学習科学の動向とあわせて紹介する。学習科学では、人の学びにおける、概念的な変化を明らかにするために、学習の成否をはかる上でも、また学習者への効果的な介入のあり方を評価するためにも、言語データとくに談話・会話データに依拠することが多い。学習科学の成立過程と動向を整理した上で、実際の研究を吟味しながら、談話・会話分析的手法を紹介する。

**評価方法**：出席およびレポート

**教科書**：指定しない

**参考図書**：茂呂雄二『人はなぜ書くのか』東京大学出版会

茂呂雄二（編）『対話と知』新曜社

茂呂雄二（編）『実践のエスノグラフィー』金子書房

**授業外における学習の方法**：課題図書の講読

**受講生に望むこと**：幅広い考え方の吸収

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

- 1 導入：学習をめぐる最近
- 2 学習科学①：認知科学、コンピュータサイエンスにおける学習研究
- 3 学習科学②：状況的学習論
- 4 学習科学③：ワークプレイス研究
- 5 談話の科学①：会話の分析
- 6 談話の科学②：語りの内容分析
- 7 談話の科学③：言説の分析
- 8 学習過程の分析：談話および言説の内容分析の実際
- 9 学習過程への介入：理科における介入的研究の実際
- 10 学習過程の組織化：コミュニティーの学習過程分析の実際

# 教育心理学特講 (01EE201)

(Lecture on Educational Psychology)

**授業形態**：講義

**担当教員**：外山美樹

**授業時間**：2学期 金曜日 第4・5時限

**研究室**：人間系学系棟 A345 TEL853-4614

**単位数**：2単位

**オフィスアワー**：火曜日 15:30～17:30

**履修年次**：1・2年

---

**授業の到達目標**：教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。特に、様々な研究方法や分析方法を獲得することを主要な目的とする。

**授業概要**：教育心理学分野の最近の重要なトピックをレビューし、教育心理学研究に関する理解を深める。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文（英文を含む）や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。

**評価方法**：出席状況、レポート（発表内容）、討論参加の程度によって総合的に判断する。

**教科書**：未定

**参考図書**：授業中に紹介する。

**授業外における学習の方法**：常日頃、様々な文献に目を通してください。

**受講生に望むこと**：積極的な授業参加を望みます。

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

1. オリエンテーション
2. 研究論文・専門書の発表、討論
3. //
4. //
5. //
6. //
7. //
8. //
9. //
10. //

# 教育測定学特講 (01EE204)

(Seminar in Educational Measurement)

**授業形態**：講義

**授業時間**：1学期 木曜日 第4・5時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：服部 環

**研究室**：人間系学系棟 B302

**オフィスアワー**：木曜日第2時限

---

**授業概要**：心理学の研究には基本的な心理統計技法の習得はもちろんのこと、多変量データ解析や計量心理学的技法の習得が必要となる。本講義では心理統計学をベースにして多変量データ解析や計量心理学的技法を学ぶ。技法の習得・利用にはコンピュータソフトウェアが必要であるから、適宜、ソフトウェアを紹介する。授業では、まず心理学の研究に利用されている統計解析技法を書籍・研究論文を通して概観し、続いて主要な心理統計技法に焦点を絞る予定である。受講者には文献講読・報告を課す。

**評価方法**：出席およびレポートによる。

**資料**：随時配布する。

**参考図書**：

- (1)足立浩平 (2006). 多変量データ解析法ー心理・教育・社会系のための入門ー ナカニシヤ出版
- (2)Everitt, B.著 石田基広・石田和枝・掛井秀一訳 (2007). RとS-PLUSによる多変量解析 シュプリンガー・ジャパン
- (3)Fox, J. (2006). Structural Equation Modeling With the sem Package in R. Structural Equation Modeling, 13, 465-486.
- (4)Kreft, I. & de Leeuw, J.著 小野寺孝義・菱村 豊・村山 航・岩田 昇・長谷川孝治訳 (2006). 基礎から学ぶマルチレベルモデルー入り組んだ文脈から新たな理論を創出するための統計手法

---

## 授業計画 (各週毎授業計画)

1. 導入
2. 内外の書籍・研究論文の講読-1
3. 内外の書籍・研究論文の講読-2
4. 内外の書籍・研究論文の講読-3
5. 心理統計技法の学習-1
6. ソフトウェアの利用-1
7. 心理統計技法の学習-2
8. ソフトウェアの利用-2
9. 心理統計技法の学習-3
10. ソフトウェアの利用-3

以上。

# 青年心理学特講 (001EE207)

(Lecture on Adolescent Psychology)

**授業形態**：講義

**授業時間**：3学期 木曜日 第4・5時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：佐藤有耕

**研究室**：人間系学系棟 A344 TEL853-4695

**オフィスアワー**：火曜日 11:40～12:00

<E-mail:yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp>

---

**授業の到達目標**：授業で取り上げる内容を通して、青年心理学研究の現状と課題を理解し、青年の心理を理解する多様な観点を身につけること。例えば、青年を対象としてとらえ、外から青年を理解しようとする立場と、青年の側に立って青年を理解しようとする立場(落合, 2002)の違いを知ること。青年性・世代性・個性性という問題設定の観点(西平, 1988)を理解すること。一つの現象を対自的側面・対他的側面・時間的展望の側面を含む全体としてとらえること(落合, 1995)。

**授業概要**：青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。文献には、青年心理学の古典、体系的なテキスト、学位論文などの重厚な研究、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。学類の講義とは違い、少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする予定である。

**評価方法**：授業に参加して、討議や発表や質疑応答など、受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行う。テストは行わない。

**教科書**：未定

**参考図書**：①西平直喜・久世敏雄(編) 『青年心理学ハンドブック』 東京:福村出版, 1988

②久世敏雄・齋藤耕二(監修) 『青年心理学事典』 東京:福村出版, 2000

③加藤隆勝・高木秀明(編) 『青年心理学概論』 東京:誠信書房, 1997

**授業外における学習の方法**：授業に関連する内容について、受講生各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

**受講生に望むこと**：専門の如何にかかわらず、この授業を通して青年心理学の知見を学び、各自の研究活動に役立てること。

---

## 授業計画 (各週毎授業計画)

0. オリエンテーション

1. 青年心理学の概要

2. わが国の青年心理学の動向

3. 青年心理学の重要文献の検討～

\*具体的な内容に関しては、受講生との顔合わせの後に、年度ごとに検討して確定していく\*

# 児童心理学特講 (01EE207)

(Lecture on Child Psychology)

**授業形態**：講義(演習形態を含む)

**担当教員**：櫻井茂男

**授業時間**：2学期 火曜日 第4・5時限

**研究室**：人間系学系棟 A412

**単位数**：2単位

**オフィスアワー**：水 10:00-11:30

**履修年次**：1・2年

---

**授業の到達目標**：児童期の愛着(attachment)について理解する。

**授業概要**：児童心理学についての新しい研究成果を紹介したり、レポートをしてもらったりして、理解を深める。今年度は、愛着の問題を、Kerns & Richardson(編)“Attachment in middle childhood”(予定)を読み、討論する。

**評価方法**：レポート、討論参加の程度、出席状況によって行う。

**教科書**：授業中に配布する。

**参考図書**：授業中に紹介する。

**授業外における学習の方法**：できるだけ教科書の英文に目を通すこと。

**受講生に望むこと**：心理学の英文を読みレポートをしてもらうため、英語が得意であること。

---

## 授業計画 (各週毎授業計画)

- 1 オリエンテーション
- 2 Ontogeny of attachment in middle childhood: Conceptualization of normative changes.
- 3 Developmental contextual consideration of parent-child attachment in the later middle childhood years.
- 4 同上
- 5 Assessing attachment in middle childhood
- 6 The attachment hierarchy in middle childhood: Conceptual and methodological issues.
- 7 Dimensions of attachment in middle childhood.
- 8 同上
- 9 Attachment in infancy and in early and late childhood: A longitudinal study.
- 10 The construct of coherence as an indicator of attachment security in middle childhood: The friends and family interview.
- 11 Attachment and friendship predictors of psychosocial functioning in middle childhood and the mediating roles of social support and self-worth.
- 12 同上
- 13 Quality of attachment at school age: Relations between child attachment behavior, psychosocial functioning, and school performance.
- 14 同上
- 15 Perceived security of attachment to mother and father: Developmental differences and relations to self-worth and peer relationship at school.
- 16 同上
- 17 Examining relationships between students and teachers: A potential extension of attachment theory?
- 18 同上
- 19 Relationships past, present, and future: Reflections on attachment in middle childhood.
- 20 まとめ

# 社会心理学特講 (01EE301)

(Lecture on Interpersonal Social Psychology)

**授業形態**：講義

**担当教員**：松井豊

**授業時間**：1学期 木曜日 第2・3時限

**研究室**：人間系学系棟 A312 TEL853-6779

**単位数**：2単位

**オフィスアワー**：木曜日 11:35-12:25

**履修年次**：1年

---

**授業の到達目標**：社会心理学や非験系の心理学に関する研究職を目指す大学院生のために、論文作成に必要なスキルを高めることを目的とする。

**授業概要**：社会心理学の下記にあげる研究技法を、講義と実習を通して説明する。

**評価方法**：出席と課題提出。

**教科書**：指定しない。

**参考図書**：講義中に紹介する。

**授業外における学習の方法**：課題を完成させるために、演習時間外に必要な作業を行う。

**受講生に望むこと**：適切な講義環境を保つために、受講制限を行う。制限条件は初回講義開始時に説明する。初回欠席者は受講できない。初回講義時に、研究業績の一覧（卒論・修論は要約、学会発表や学会誌はコピー）を持参すること。なお、修論生も別扱いにしないので、修論生の受講は勧めない。

---

## 授業計画

初回に受講生の業績内容を検討し、下記のテーマの中から必要と考えられるものを順に行う。

a. 文献の収集法・整理法

図書館・書店情報・インターネットを用いた情報検索・2次情報源・PsycINFO  
文献のメタ分析

b. 要因図を用いた問題の整理

c. 質問票の作成テクニック

d. データ処理に技術 …多変量解析の使い方

統計のウソ

多変量解析の基礎・クラスター分析・主成分分析

因子分析

数量化Ⅲ類

重回帰分析・パス解析

e. フィールド調査の実施上の注意

f. 学会発表におけるプレゼンテーションの技術

学会発表の予行練習

g. 各学会誌の文体

学会誌の文体を分析する

h. 「心理学」教師としてのテクニック

心理学の模擬講義を行う

i. パワーポイントを使う

パワーポイントを用いてプレゼンをする

j. 文献批判の視点

# 集団心理学特講 (01EE305)

(Lecture on Group Psychology)

**授業形態** : 講義

**担当教官** : 吉田富二雄

**授業時間** : 2学期 木曜日 第4・5時限

**研究室** : 人間系研究棟 A308

**単位数** : 2単位

**オフィスアワー** : 木曜日 16:00~17:00

**履修年次** : 1・2年

**e-mail** : fyoshida@human.tsukuba.ac.jp

---

**授業の到達目標** : 専門的基礎知識、思考様式に触れることによって、集団心理学についての洞察を得、ひいては、社会的存在としての人間理解を深めることを目的とする。

**授業概要** :

1回目は集団心理の基礎に関する講義 (Introduction)。2回目は構造的単純接触効果をテーマに閾下刺激と潜在指標を用いた実験について。3回目は、Internet 調査から分析手法について議論する。4回目以降は、Social Psychology and the Unconscious の各章を参加者 (各章2名) がレポートする。

**評価方法** : レポート発表

**教科書・参考書** : 参考資料を配付。

① Social Psychology and the Unconscious. Edited by John A. Bargh

② サブリミナル・マインド 下條信輔 (中公新書)

**授業外における学習方法** : 現在の社会変化に関心を持ち、深く考えること。

**受講生に望むこと** : 受身ではなく積極的な参加の意識をもつこと。

---

## 授業計画

1. 個人と集団・・・心的世界の位相／集団の促進と抑制効果
2. 潜在指標について・・・構造的単純接触効果をめぐって
3. 共分散構造分析・・・Internet 調査をめぐって
  
4. Social Psychology and the Unconscious
  - (1) What is automaticity? An Analysis of its Component Features and Their Interrelations
  - (2) Effects of Priming and Perception on Social Behavior and Goal Pursuit
  - (3) Automaticity in Close Relationship
  - (4) On the Automaticity of Emotion
  - (5) The Automaticity of Evaluation
  - (6) The Implicit Association Test at Age 7: A Methodological and Conceptual Review
  - (7) Automatic and Controlled Components of Social Cognition: A Process Dissociation Approach

# 臨床社会心理学特講 (01EE307)

## (Lecture on Clinical Social Psychology)

**授業形態**： 講義

**授業時間**： 1学期 火曜日 第4・5時限

**単位数**： 2単位

**履修年次**： 1・2年

**担当教官**： 湯川進太郎

**研究室**： 人間系研究棟 A307

**オフィスアワー**： 木曜日昼休み

**e-mail**： s-yukawa@human.tsukuba.ac.jp

**授業の到達目標**： 学術論文を通して、臨床心理学的なテーマに対する社会心理学的なアプローチの仕方を身につける。また、心理学論文の読み方・書き方として、問題の展開、目的・仮説の設定、実験・調査の方法、データの分析方法や結果の記述、考察の仕方も併せて学ぶ。

**授業概要**： 受講する学生が興味・関心のある学術論文（英文）を紹介し、受講生全員で討論する。

**評価方法**： 授業への参加および発表、討論への参加姿勢に基づいて、総合的に評価する。

**教科書・参考書**： なし

**授業外における学習方法**： 心理学以外の書籍を多読・乱読する。

**受講生に望むこと**： 討論への積極的な参加を望む。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 最新の学術論文をもとにディスカッション
3. 最新の学術論文をもとにディスカッション
4. 最新の学術論文をもとにディスカッション
5. 最新の学術論文をもとにディスカッション
6. 最新の学術論文をもとにディスカッション
7. 最新の学術論文をもとにディスカッション
8. 最新の学術論文をもとにディスカッション
9. 最新の学術論文をもとにディスカッション
10. 受講生各自の修士論文のテーマに関するアドバイス

# 臨床心理学特講 (01EE401)

(Lecture on Clinical Psychology)

**授業形態**：講義

**授業時間**：1・2学期 火曜日第4・5時限

**単位数**：4単位

**履修年次**：1年

**担当教員**：小川俊樹・杉江征・濱口佳和

**研究室**：D棟703ほか

**オフィスアワー**：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

---

**授業の到達目標**：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

**授業概要**：臨床心理学の諸基礎理論、心理アセスメントと介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。1学期を小川と杉江が担当し、2学期を濱口が担当する。

**評価方法**：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

**教科書**：1回目の授業にて提示

**参考図書**：授業中に適宜提示

**授業外における学習の方法**：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

**受講生に望むこと**：積極的に質問すること。

---

## 授業計画 (各週毎授業計画) 1学期分 担当 小川俊樹・杉江征

(1学期10回分。1回2時間配当。)

1. 臨床心理学の発展と役割
2. 心理臨床家の役割・業務・倫理・研鑽
3. 各テーマの解説と課題の役割分担、「方法としての面接」について
4. 心理療法の諸原則1 (第一部 導入部)
5. 心理療法の諸原則2 (第二部 心理療法の初期)
6. 心理療法の諸原則3 (第三部 心理療法の中期)
7. 心理療法の諸原則4 (第四部 心理療法の終結期)
8. 心理療法の実際1 (主に神経症圏の症例報告とその基礎理論)
9. 心理療法の実際2 (主に統合失調症圏の症例報告とその基礎理論)
10. 心理療法の実際3 (主に心身症・適応障害の症例報告とその基礎理論)

心理臨床の基本的な考え方を学び、今後展開される各論への導入としての授業である。最初の2回にわたって、臨床心理学の存在理由や、心理臨床家としてのアイデンティティについて小川が担当する。その後の8回を杉江が担当する。

心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通した自己と他者との交流である。それゆえ、3回目の授業以降では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。各授業では、それぞれ設定されたテーマについて各自発表を行う。そして、その発表をもとに参加者全員で討論を行う。その場で発表された知識(知見)を各自がそれぞれの体験の中で吟味し、その知識(知見)と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていくことを目的としている。

# 臨床心理学特講 (01EE401)

(Lecture on Clinical Psychology)

**授業形態**：講義

**授業時間**：1・2学期 火曜日第4・5時限

**単位数**：4単位

**履修年次**：1年

**担当教員**：小川俊樹・杉江征・濱口佳和

**研究室**：D棟703ほか

**オフィスアワー**：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

---

**授業の到達目標**：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

**授業概要**：臨床心理学の諸基礎理論、心理アセスメントと介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。1学期を小川と杉江が担当し、2学期を濱口が担当する。

**評価方法**：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

**教科書**：1回目の授業にて提示

**参考図書**：授業中に適宜提示

**授業外における学習の方法**：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

**受講生に望むこと**：積極的に質問すること。

---

## 授業計画 (各週毎授業計画) 2学期分 担当 濱口佳和

(2学期10回分)

1. 遊戯療法の理論
2. 遊戯療法の実際 (事例1・事例2)
3. 箱庭療法の理論
4. 箱庭療法の実際 (事例1・事例2)
5. 子どもを対象とした行動療法の理論と実際1
6. 子どもを対象とした行動療法の理論と実際2
7. 子どもの攻撃的問題行動 (反抗挑戦性障害・行為障害) の理解と臨床心理学的支援1
8. 子どもの抑うつ の理解と臨床心理学的支援
9. 子どもの不安障害の理解と臨床心理学的支援
10. 問題を持つ子どもの保護者の理解と臨床心理学的支援

子どもの心理療法でよく用いられる遊戯療法、箱庭療法、行動療法の理論と実際を専門書・学会誌掲載事例論文を引用しながら詳細に説明する (第1回～第6回)。幼児期から思春期の間でよく見られる子どもの心理・社会的不適応の問題として、攻撃的な問題行動、抑うつ関連障害、不安障害を取り上げ、それぞれの問題について、操作的定義、アセスメント法、症状形成、疫学、臨床心理学的介入法について論じる (第7回～9回)。最後に問題を抱えた子どもの保護者への臨床心理学的支援の方法について論じる (第10回)。

# 臨床心理学面接特講 (01EE402)

## (Lecture on Psychotherapy)

**授業形態**：講義・実習

**授業時間**：1・2学期 木曜日 第2・3時限

**単位数**：4単位

**履修年次**：1年

**担当教員**：○小川俊樹・杉江征・佐藤純

**研究室**：総合研究棟D棟 D-705

**オフィスアワー**：水曜日

12時～12時45分

---

**授業の到達目標**：心理臨床における面接の基本技術と心構えを身につける。

**授業概要**：2つの学期を通じて行う心理臨床の基礎スキル訓練クラス。

普段の授業形態は、木曜日の2限目には講義、3限目には2限目に学習したことを体験学習する。

●1学期目はグループ形式で行われる「人間関係訓練ラボ (Human Relations Training Laboratory)」モデルを用いて、①自分を他人に知らしめること、②聞くことと応えることを中心に練習を行う。

●2学期目には、模擬カウンセリングなどを通して面接技術を向上させる。また、この学期では初回面接の方法と心理レポートの書き方についても触れる。

**評価方法**：出席とクラス参加、課題の提出、発表などを総合して評価する。

**教科書**：授業の中でプリントなどを用意する。

**参考図書**：DSM-IV-TR (ポケット版)、その他の参考図書に関しては授業の中で紹介する。

**授業外における学習の方法**：人間関係について、また客観的に自分を見つめること。また、授業外でTAと一緒に自分の姿を撮ったビデオを見るなどを通して学ぶ機会を持つ。

**受講生に望むこと**：このクラスは実践クラスで、一方的に講義を聞いてノートを取るタイプのクラスではない。2学期を通して臨床家としての基本的なスキルと考え方を身に付けるので、リスクをとって積極的にクラスに参加することを望む。

---

### 授業計画

●1学期の10回分 (2時限目の講義と3時限目の実習の2コマを1回と数える)

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. 導入            | 2. 自己開示スキル |
| 3. コミュニケーションの具体化 | 4. 感情表現    |
| 5. 傾聴スキルなど       | 6. 共感スキルなど |
| 7. 上級共感スキルなど     | 8. 対決など    |
| 9. 実習            | 10. 実習     |

●2学期の10回分 (2時限目の講義と3時限目の実習の2コマを1回と数える)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 導入       | 2. 面接スキル    |
| 3. 面接スキル    | 4. 面接スキル    |
| 5. 初回面談     | 6. 初回面談     |
| 7. 見立てと治療計画 | 8. 見立てと治療計画 |
| 9. レポート作成   | 10. レポート作成  |

注：授業計画は変更することもある。

# 臨床心理基礎実習 (01EE403)

(Practice in Clinical Psychology: Basic)

**授業形態**：臨床実習

**担当教員**：小川俊樹・杉江征・濱口佳和・  
( )・佐藤純・中込四郎

**授業時間**：通年 木曜日 第4・5時限

**研究室**：D棟703ほか

**単位数**：3単位

**オフィスアワー**：教員により異なる

**履修年次**：1年

(メールによる問い合わせ)

---

**授業の到達目標**：インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになること。

**授業概要**：心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。

**評価方法**：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

**教科書**：特になし。

**参考図書**：適宜提示する。

**授業外における学習の方法**：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

**受講生に望むこと**：積極的に参加し、質問すること。

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

# 臨床心理実習 (01EE404)

(Practice in Clinical Psychology)

**授業形態**：臨床実習

**担当教員**：小川俊樹・杉江征・（ ）・  
中込四郎

**授業時間**：通年 木曜日 第5時限

**研究室**：D棟703ほか

**単位数**：3単位

**オフィスアワー**：教員により異なる

**履修年次**：2年

(メールによる問い合わせ)

---

**授業の到達目標**：インテークを一人で実施できるとともに、スーパーバイズの下でケースを担当できるようになること。

**授業概要**：心理相談室および子ども相談室の活動に参加し、インテークカンファレンスへの参加。

**評価方法**：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

**教科書**：特になし

**参考図書**：適宜提示する。

**授業外における学習の方法**：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

**受講生に望むこと**：積極的に参加し、質問すること。

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、カウンセリングを行うのに必要な技能の習得に努める。したがって、担当ケースによっては、正規の授業時間外にも行われる。なお、心理相談室は夏期及び春期休暇中にも開かれていますので、休暇中も授業が行われる。2年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

# 発達臨床心理実習 (01EE405)

(Practice in Developmental Clinical Psychology)

**授業形態**：実習

**授業時間**：1～3学期 木曜日 第4時限

**単位数**：3単位

**担当教員**：濱口佳和・佐藤純・庄司一子

**研究室**：人間 B326, D棟 722, D棟 315

**オフィスアワー**：濱口（火曜 18時～18時30分）

佐藤（水曜 12時15分～13時45分）

庄司（木曜 15時30分～17時）

**履修年次**：2年

---

## 授業の到達目標：

筑波大学子ども相談室での心理臨床活動および相談室のカンファレンスでの討論、グループ・スーパービジョンなどを通じて、幼児期から思春期頃までの心理・行動上の問題・軽度発達障害を持つ子どもとその保護者・学校教員などへの臨床心理学的支援の実践力を高める。臨床心理査定演習で学んだ諸検査のスキルを、相談活動の中で一層高めること、子どもへの支援法として遊戯療法や行動療法などの実践経験をつむこと、保護者面接の陪席・実践により、非指示的カウンセリングと子どもの問題についてのコンサルテーションの実践力を獲得することが目標とされる。

## 授業概要：

財団法人臨床心理士資格認定協会が定める指定校の必修科目であり、受講は心理臨床コースの大学院生に限定される。受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。その活動の一環として、相談室のカンファレンス、各事例におけるミーティング、担当教員によるグループ・スーパービジョンへの参加・発表・討論が求められる。

**評価方法**：相談室カンファレンス・グループ・スーパービジョンへの参加状況、担当事例での実践活動状況をふまえ、総合的に評価する。

**教科書**：特に指定はしない。

**参考図書**：杉原 一昭『事例でみる発達と臨床—カウンセリングの現場から』北大路書房

弘中正美『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版

内山喜久雄『行動療法（講座サイコセラピー）』日本文化科学社

M. ハーセン・V.B. ヴァン・ハッセル（編）（深沢 道子他訳）『臨床面接のすすめ方—

初心者のための13章』日本評論社

## 授業外における学習の方法：

担当する事例の問題行動などについて関連文献をよく調べること、各自が行った各回の子どもの心理療法や親面接の振り返りをよく行い、記録し、適宜まとめることが求められる。

**受講生に望むこと**：カンファレンスやグループ・スーパービジョン、事例ごとのミーティングに積極的に参加すること、心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと、各自が行った心理臨床実践について毎回よく振り返りを行い、長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた場合の備えとして、相談室で進める保険に加入することを求める。

---

## 授業計画（各週毎授業計画）

(1) 授業としての活動：1～3学期：毎週木曜日 4・5時限に行われるカンファレンスへの出席

(2) 相談活動：

原則として月曜日～金曜日の子ども相談室開室時間帯に、担当教員、非常勤相談員、他の相談研修員とチームを組んで相談活動を行う。相談時間は個々の事例によって決められる。各種検査面接、子どもへの心理療法の実践、保護者面接や受理面接への陪席、保護者面接の実践、などの役割を研修員の種別に応じて担当する。相談活動の各回における事前・事後のミーティングと担当ケースのグループ・スーパービジョンに参加する（グループ・スーパービジョンの開催日程は後日発表する）。また、相談活動の運営方法を学ぶため、相談室の実務活動に参加する。

## 臨床心理査定演習 I (01EE406)

### (Seminar in Psychological Assessment I)

**授業形態**：演習  
**授業時間**：集中  
**単位数**：2単位

**担当教員**：新井邦二郎・濱口佳和・佐藤純  
**研究室**：D棟 706（人間 A342）・人間 B326・D棟 722  
**オフィスアワー**：新井（木 11 時～12 時 D 棟）  
濱口（火 6 時～6 時 30 分 人間 B 棟）  
佐藤（木 12 時 15 分～13 時 30 分）

**履修年次**：1年

---

**授業の到達目標**：心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について、それぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに、演習を通じて、検査の実施・採点、個人の知能・発達水準の評価の仕方を身につける。

**授業概要**：心理臨床コースの必修科目。財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており、受講は心理臨床コースの大学院1年生に限定される。夏季・冬季の休業中に各1日、2学期期間中のいずれかの水曜日に2日、合計4日間にわたって、各種検査の講義とDVDなどを用いた実演を行う。受講後、受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し、その結果をレポートにまとめることが求められる。各種個別式知能検査・発達検査、質問紙タイプの心理尺度などを取り上げる。具体的な日程は追って知らせる。

**評価方法**：開催される講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

**教科書**：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

**参考図書**：上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』西村書店  
氏原寛他（編）『心理臨床大事典』培風館

**授業外における学習の方法**：

各回の講義終了後、受講生は順番で検査器具とマニュアルの貸し出しを受けるが、この際、練習を十分に行い、検査の実施手順に習熟することが特に必要。

**受講生に望むこと**：

全ての講義に出席し、与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また、検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

---

#### 授業計画（各週毎授業計画）

第1回（夏季休業中の1日）：知能検査の背景理論、個別式知能検査の実習Ⅰ

第2回（2学期中の水曜の1日）：各種発達検査の講義と実習

第3回（2学期中の水曜の1日）：質問紙タイプの心理尺度

第4回（冬季休業中の1日）：個別式知能検査の実習Ⅱ

## 児童臨床心理学特講(01EE409)

(Lecture on Clinical Child Psychology)

**授業形態**：講義・演習

**授業時間**：1・2学期 火曜日 第6時限

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：濱口佳和

**研究室**：人間系学系棟 B326

**オフィスアワー**：火曜日 6時～6時30分

---

### 授業の到達目標：

児童・青年の心や行動の諸問題についての基礎的研究および臨床心理学的介入研究の最新の知見を獲得すること。

### 授業概要：

児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた英文の専門書、欧文雑誌などを取り上げ、担当を決めて輪読する。理解を促進するために、折々に当該トピックについての講義も含める予定である。今年度は児童・青年の攻撃行動・外在化問題についての外国の専門書の輪読(1学期)と、児童・青年の社会性の発達に関する海外の代表的論文を選定し、輪読をする(2学期)。1学期には Connor, D. (2002). *Aggression and antisocial behavior in children and adolescents*. を使用する予定。2学期は、渡辺弥生他(2008)。「原著で学ぶ社会性の発達」を用いる予定。

### 評価方法：

各回の出席、担当部分の発表、レポートなどを総合的に評価する

### 教科書：

特に指定しない

### 参考図書：

Connor, D. (2002). *Aggression and antisocial behavior in children and adolescents*. NY: The Guilford Press.

渡辺弥生他(2008)。「原著で学ぶ社会性の発達」ナカニシヤ出版

### 授業外における学習の方法：

発表の担当者は、割り当て部分を精読し、不明の事柄については関連文献に当たるなどして極力調べておくことなどして、その内容について理解を深めておくことが求められる。

### 受講生に望むこと：

積極的な授業参加を望みます。質問や意見など、どんどん述べ、活発な論議を望みます。また授業で取り上げられた内容で、興味がひかれた事柄については、各自で積極的に文献を調べ、学習を進めることを望みます。単に当該領域の最新の知見を得るだけでなく、欧米における児童臨床心理学研究の現在の水準の高さしっかり認識し、今後各自が研究を進めていく上での示唆を得るようにしてほしい。

---

### 授業計画（各週毎授業計画）

第1回 ガイダンス

第3回 子どもの攻撃的問題行動に関する講義2

第5回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読1

第7回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読3

第9回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読5

第11回 社会性の発達の文献精読1

第13回 社会性の発達の文献精読3

第15回 社会性の発達の文献精読5

第17回 社会性の発達の文献精読7

第19回 社会性の発達の文献精読9

第2回 子どもの攻撃的問題行動に関する講義1

第4回 子どもの攻撃的問題行動に関する講義3

第6回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読2

第8回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読4

第10回 子どもの攻撃的問題行動の文献精読6

第12回 社会性の発達の文献精読2

第14回 社会性の発達の文献精読4

第16回 社会性の発達の文献精読6

第18回 社会性の発達の文献精読8

第20回 社会性の発達の文献精読10

# 老年心理学特講(01EE411)

(Psychology of Aging)

**授業形態**：講義及び演習

**授業時間**：集中\*

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：大川一郎

**研究室**：東京キャンパス E209

**オフィスアワー**：

---

**授業の到達目標**：高齢者に対する心理臨床的なケアのあり方について、その考え方、方法論について理解する。

**授業概要**：心に問題を抱えた対象者になされるケアについて主に高齢者を対象にして、心理学的視点から考察していく。まず、老年期における基本的な特徴（発達の位置づけ、身体機能や認知機能のエイジング等）を押さえた上で、「高齢者の心理的理解及び支援において、求められるものは何なのか」という根本的な問題について事例を通して考えていく。その上で、痴呆症状を示す高齢者の事例も含めてさまざまな事例の考察を通して、心理臨床的なケアのありかたについて事例や実習を通して学んでいく。

**評価方法**：毎回の出席及び、授業中の課題の報告、討論への参加の度合い等によって総合的に判断する。

**教科書**：特に使用しない。授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。

**参考図書**：授業時、適宜、紹介する。

**授業外における学習の方法**：新聞、雑誌、TV等で、高齢者にかかわる話題に敏感に反応し、読んだり見たりし、自分なりの考察を深めるように努める。また、課外授業として、老人施設への訪問、ケースワーク参加等も予定している。

**受講生に望むこと**：授業の中では、高齢者の行動の背景にある要因を推測していくことを手がかりにその対応について考えていく。授業の中で得た、知識、視点、方法論をさらに、自分なりに発展させて欲しい。

---

## 授業計画

- 1週 生涯発達の視点からみた老年期
- 2週 身体機能の加齢変化
- 3週 認知機能の加齢変化
- 4週～5週 高齢対象者の心理的理解と援助
- 6週～7週 認知症者の心理的理解と援助
- 8週～10週 各自及びグループで課題に基づき、レポートをまとめ発表し、討論を行い、その内容について深めていく。課題としては、①特定の高齢者を対象にライフヒストリーの聞き取りを行い、その内容について発表する、②高齢者にかかわる特定のテーマを自分なりに設定し、文献等を調べ、自分の考察も盛り込みながら発表する、③実際の介護困難事例についてのケースワーク等を予定している。

- 開設時期等については、受講希望者は、授業担当者にメールで問い合わせること。

メールアドレス [iot21005@human.tsukuba.ac.jp](mailto:iot21005@human.tsukuba.ac.jp)

# 病態心理学特講(01EE414)

(Lecture on Pathological Psychology)

**授業形態**：講義及び演習

**授業時間**：集中

**単位数**：2単位

**履修年次**：1・2年

**担当教員**：小川俊樹・望月聡

**研究室**：D棟703・704

**オフィスアワー**：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

---

**授業の到達目標**：心理学の一研究法としての病的アプローチの意義を理解し、病態心理学の成果を学ぶ。

**授業概要**：病態心理学とは何かをまず講義し、次いで心理的な面からと神経心理学的な面からという、対照的なアプローチによる研究を、関係文献や資料の講読及び討論を通して、病態心理学的アプローチの理解を深める。

**評価方法**：出席状況、レポートの提出及び討論への参加などを総合的に評価する。

**教科書**：特になし

**参考図書**：授業中に適宜提示する。

**授業外における学習の方法**：関係文献を読み、発表に備えること。

**受講生に望むこと**：討論への積極的な参加。

---

## 授業計画

病態心理学という言葉は耳慣れないかもしれないが、仏語圏においては実験心理学にも比される心理学の基礎的な分野である。病態心理学とは、「行動や意識、そしてコミュニケーションの障害を研究対象とする学問である」(Sillamy, 2003)と定義されるが、心理的障害の詳細な観察や分析を通して、一般法則を見出そうとするアプローチである。このような病態心理学のパイオニアとして、運動性失語症を解明したBroca, P.P.の名前が挙げられることもあるが、通常はフランス心理学の祖と呼ばれているRibot, Th.に始まるとされている。病態心理学とは、病の心理学というよりも、病態理解を通して、一般心理を理解しようとするアプローチに他ならない(丹野義彦・小川俊樹・小谷津孝明編「臨床認知心理学」(近刊)東大出版会)。本講では、先ず病態心理学について小川が講義し、次いで、上記のBrocaとRibotの例に認められるように、主として神経心理学的面からのアプローチについて望月が、主として心理的な側面からのアプローチについて小川が担当して、関係文献や資料の講読と討論を中心に、授業を進める。今年度は、対象として、「言語」を取り上げる。